

令和7年度 御挨拶



おかげさまで、本校は今年度で創立 125年目を迎えました。本校の前身である西宇和郡立商業学校が 1901 年(明治 34 年)に開校されて以来、いくつかの変遷を経て、1949 年(昭和 24 年)に愛媛県立八幡浜高等学校が誕生し、現在に至ります。

盛時には、1学年 11 学級、全校生徒 1,320 名を数えた本校も、近年の少子化による児童・生徒数の減少により、今年度は 1 学年 5 学級、全校生徒 530 名となっています。学校の変遷は、地域とも密接に関わっています。明治時代には「伊予の大阪」とうたわれ、1950 年に 72,882 人を数えた人口も、2025 年1月末時点で 29,907 人と半数以下に減っています。県内、特に南予地域での少子高齢化が急速に進む中、教育の質によって地域を選んでいただけるよう、地域の中核校としての使命を果たしてまいりたいと思っています。

子供は家庭の宝、地域の宝と言います。そういった大切な子供たちを預かる本校は、校訓五綱領(勉学、礼儀、健康、融和、奉仕)を掲げ、先行き不透明なこれからの時代に求められる、課題を発見する力、解決を目指し協働する力、新しい価値を創造する力などの育成を目指して、日々の教育活動に取り組んでいます。

令和8年度には、県立学校振興計画の下、新制八幡浜高校がスタートします。新校は、4 つの学科を備えた学科横断型の新しい学びを取り入れるとともに、南予最大規模の学校として互いに高め合える環境を目指します。すでに、STEAM教育のための専用教室や最新のICTやPCを備えたデジタル教室を整備し、新しい学びをスタートさせています。新しい制服も決まり、新校舎建築の準備も進めているところであり、学校の更なる充実・発展を目指しています。

学校は、家庭や地域に支えられてこそ存立します。その思いを生徒・教職員で共有し、地域に貢献できる学校づくりを進めていきたいと思っておりますので、今後とも本校への御支援・御協力をお願いいたします。

愛媛県立八幡浜高等学校 校長 菊池 博喜